

Schaerer ProCare

取扱説明書



発行者情報

出版者

Schaerer AG, Postfach 336, Niedermattstrasse 3b, CH-4528 Zuchwil

バージョン

08.2024

コンセプトおよび編集

Schaerer AG, Postfach 336, Niedermattstrasse 3b, CH-4528 Zuchwil

Copyright ©

Schaerer AG, Postfach 336, Niedermattstrasse 3b, CH-4528 Zuchwil

本書は著作権で保護されています。無断複写・転載を禁じます。Schaerer AG の書面による事前の許可なくして、本書の内容を複写、配布、電子的に転送することや、多言語に翻訳することは禁じられています。これは本書の全部または一部に対して適用します。本書の内容は、印刷時に利用可能な最新データによるものです。Schaerer AG は事前の予告なしに変更を行う権利を有します。本書中のすべての図、図解や表示メッセージは例です！幅広いオプションにより、お使いの機械が本書に示された機械と異なる可能性があります。Schaerer AG の責任は、ドイツ語版の原文に限るものとします。

目次

1	安全	4
1.1	記号とマーク	4
1.1.1	安全に関する注意事項	4
1.1.2	使用される警告記号	4
1.1.3	使用される行うべき事項の記号	5
1.2	適切な用途	5
1.3	予見可能な誤使用	5
1.4	使用会社の義務	5
1.5	スタッフ要件	6
1.6	残留リスク	6
1.6.1	感電の危険	7
1.6.2	洗剤による危険	7
1.7	物損の危険	8
2	テクニカルデータ	9
2.1	マシンデータ	9
2.2	ビル側電源接続	9
2.3	水接続値	10
2.4	周囲条件	10
2.5	定格銘板	10
3	適合宣言書	12
3.1	適用規格	12
3.2	製造者住所	13
4	製品の説明	14
4.1	ProCareの概要	14
5	取付けと試運転	16
5.1	ProCareユニットの接続	16
5.2	マシンにProCareユニットをつなぎます	16
5.3	ProCareユニットを冷却ユニットと接続します	17
5.4	ProCareユニットのケーブル接続	18
5.5	ProCareクリーニングバッグの取り付け	19
6	操作	22
6.1	サービスメニューへのログイン	22
6.2	システムクリーニングサイクル	22
6.3	クリーニングプランの呼び出し	23
6.4	クリーニング時間の設定	25
6.5	ProCareクリーニングのバリエーション	27
6.5.1	ProCareでの予定クリーニング開始	27
6.5.2	追加のクリーニング	34
6.6	ProCare：ミルクホースピース (Plug&Clean) の洗浄	35
7	クリーニング	38
8	障害の除去	39
9	アンインストール	40
10	廃棄	41

1 安全

1.1 記号とマーク

1.1.1 安全に関する注意事項



危険

死亡事故や重傷を負うおそれのある非常に危険な状況を示しています。

こうした危険を防止するために説明されている措置に必ず従ってください。



警告

重傷を負う可能性がある一般的に危険な状況。

こうした危険を防止するために説明されている措置に必ず従ってください。



注意

軽傷を負う可能性のある一般的に危険な状況。

こうした危険を防止するために説明されている措置に必ず従ってください。



注記

マシンへの物的損傷につながるおそれのある状況を示しています。

こうした危険を防止するために説明されている措置に必ず従ってください。

1.1.2 使用される警告記号

危険や指示に関するシンボルは、取扱説明書にもマシン本体にも使用されています。

記号	危険のタイプ	記号	危険のタイプ
	高温液体に対する警告		高温表面に対する警告
	高温蒸気に対する警告		危険な電圧に対する警告
	有害物質に対する警告		手指の怪我に対する警告

1.1.3 使用される行うべき事項の記号

記号	意味	記号	意味
	文書をよくお読みください！		保護手袋を着用してください！
	保護メガネを着用してください！		手を洗ってください！
	電源プラグを抜いてください！		

1.2 適切な用途

ProCareはSchaerer AGの多種多様なコーヒーマシンを対象とする調製用装置です。このモジュールはクリーニングパウダーを溶解し、接続されているマシンに必要な濃度のクリーニング液を供給します。これでコーヒーマシンは使用者の手間が省け自動的にクリーニングされます。

ProCareおよびSchaererコーヒーマシンは商店用だけでなくホテルや外食産業またはこの種の場所専用であり、装置の運転中に担当管理者が設置場所にいる限り、セルフサービスポイントでの設置も可能です。ProCareおよびコーヒーマシンは商店やオフィスまたはこの種の職場さらにホテル、モーテル、B&Fにも向いています。

クリーニングとユーザーによるメンテナンスは、監督なしに子供に行わせることはできません。クリーニングとユーザーメンテナンスは、特に安全および衛生に関して、知識と機器の実務経験を持つ人のみが行うことができます。



調製用装置ProCareのご使用はSchaerer AGの基本取引約款および本取扱説明書にも従うものとします。

本機を他の目的で、または指定以上の方法でご使用になった場合、不適切な使用が行われたものとみなされます。これが原因で発生した損害に関してはメーカーは責任を負いかねます。

1.3 予見可能な誤使用

マシンの目的以外の使い方やその他の使用は、誤用とみなされ、危険な状況につながるおそれがあります。マシンを不適切に取り扱おうと怪我するおそれがあります。

- ▶ 使用し始める前に、取扱説明書をよくお読みください。
- ▶ 有資格のサービス担当者のみマシンと調製用装置のサービスエリアへのアクセスを許可してください。
- ▶ クリーニングとユーザーメンテナンスは、特に安全および衛生に関して、知識と装置の実務経験を持つ人のみが行うことができます。
- ▶ セルフサービスモードおよび操作を伴う使用時には装置を研修済みスタッフに監視させ、ユーザーの質問に応じ、クリーニング処置およびメンテナンス処置を必ず行うように確実にします。
- ▶ 装置の安全装置に変更を加えないでください。
- ▶ 装置が正常に機能し、損傷していない場合のみマシンをご使用ください。

1.4 使用会社の義務

マシンの使用会社は、Schaerer AGサービスパートナー、委託業者もしくはその他の認可された人による安全装置の定期的なメンテナンスおよび点検を行う義務があるものとします。欠陥については、30 日以内に書面で

Schaerer AGにクレームとして報告すること! 後から欠陥が見つかった場合には、この期間が取付けから 12 ヶ月以内 (作業レポート、納入記録) となるものの、遅くともツッフヴィルの工場から発送されてから 18 ヶ月以内とします。

安全バルブ、安全サーモスタット、ボイラーなどの安全関連部品は交換するものとし、修理することはできません。

使用会社はメンテナンス規定通りに行う責任があります。

1.5 スタッフ要件



警告

資格不足による怪我の危険!

専門的に正しく取り扱わないと重大な負傷や物損につながるおそれがあります。
どんな作業でも行う作業についての資格があるスタッフが行ってください。

ここにスタッフとは、仕事を信頼して任せておくことが期待できる人のみが認められます。薬物やアルコール、薬剤などによって反射動作に支障がある人が行うことはできません。

スタッフの選任においては勤務場所に適用される年齢および職業上固有の規則に従わなければなりません。

取扱説明書には作業分野別に以下の資格が規定されています：

指導を受けたスタッフ

使用会社から任される任務について指導を受け、適切に行動しない場合に可能な危険に関して説明を受けた人。

専門スタッフ

教育と知識ならびに経験および関連規則の知識に基づいて、担当する仕事を遂行でき、可能な危険を自律的に察知して回避する能力がある人。

サービス担当者

メーカーまたは使用会社からサービス業務専用の指導を受けた有資格者。

電気の専門家

教育と知識ならびに経験および関連規格および規則の知識に基づいて、電気設備での仕事を遂行でき、可能な危険を自律的に察知して回避する能力がある人。電気の専門家は担当している特殊な使用場所のために研修を受け、関連規格や規則を把握した人です。

1.6 残留リスク

Schaerer AGの製品は最高の安全性を特徴としています。ただ、怪我や健康への被害を防ぐための以下の章が守られた場合のみ、安全装置の効果が現れます。



この安全に関する注意事項はSchaerer AGにご請求いただくことも、またウェブサイト (schaerer.com/member) のメディアプールから直接ダウンロードしていただくことも可能です。

1.6.1 感電の危険



危険

感電による生命の危険！



電気機器を不適切に取り扱くと、感電のおそれがあります。生命への危険があります。

- ▶ 電気機器での作業は、必ず電気の専門家のみが行う必要があります。
- ▶ 装置を保護回路に接続してください。
- ▶ 該当の低電圧指針または国別ないし使用地の安全規定および諸規則にご注意ください。
- ▶ 規則に従って接地し、感電を防止してください。
- ▶ 装置の定格銘板にある諸元と一致する電源電圧であることを確認してください。
- ▶ 電圧の流れているパーツには絶対に触らないでください。
- ▶ メンテナンス作業の前にメインスイッチを切るか装置を系統電源から切断します。
- ▶ 装置のすべての極が系統電源から切断できることを確認してください。切断された接続は、機器の場所から常に見える必要があります、ロックによって切断を確保する必要があります。
- ▶ 接続ケーブルは有資格サービス担当者だけに交換を依頼してください。

1.6.2 洗剤による危険



洗剤を使用する前に洗剤パッケージの情報によく目を通してください。安全データシートが添付されていない場合、販売会社 (洗剤のパッケージを参照) にこれを請求することができます。



警告

洗剤による中毒の危険！

洗剤を飲み込んだり、蒸気を吸い込んだりすると、中毒症状が発生するおそれがあります。

- ▶ 洗剤は子供や関係者以外の人物の手の届かない場所に置いてください。
- ▶ 洗剤を飲み込まないように注意してください。
- ▶ 洗剤は決してその他の化学物質と混合しないでください。
- ▶ 洗剤およびカルキ抜きはそれぞれ指定の用途にのみ使用してください (ラベルを参照)。
- ▶ 洗剤使用中は飲食をしないでください。
- ▶ 洗剤使用中はしっかりと換気が行われていることに注意してください。
- ▶ 洗剤使用中は保護手袋を着用してください。
- ▶ 洗剤使用後はすぐに丁寧に手を洗ってください。

緊急連絡先: 洗剤メーカー (洗剤のラベルを参照) に緊急時の連絡先電話番号 (毒物情報センター) を尋ねてください。日本にこうした機関が無い場合、次の部署にお問い合わせください：

スイス毒物情報センター

スイス国外からの電話	+4144 251 51 51
スイス国内からの電話	145
インターネット	www.toxi.ch

1.7 物損の危険



注記

装置の不適切な取り扱いによる物損！

装置の不適切な取り扱いにより物損や汚染につながる恐れがあります。

- ▶ 障害が発生した場合は取扱説明書のトラブルシューティングを参照して、必要なら有資格サービス技術者にご依頼ください。
- ▶ Schaerer AGの純正交換パーツのみご使用ください。
- ▶ 外面の見える損傷や漏れはサービス代理店に速やかに報告し、該当の部品の交換もしくは修理を依頼してください。
- ▶ 機器に水をかけたり、スチームクリーナーで洗わないでください。
- ▶ 水がかかる可能性がある場所に機器を設置しないでください。

2 テクニカルデータ

2.1 マシンデータ

テクニカルデータ	
定格出力	28 ~ 30 W
ブレーカー、現場	最大16 A
定格電流	0.16 A
出力電圧	5 VDC、24 VDC
制御接続	6極CAN Mini-DIN 2 口
容量	
塩基性クリーナー容量	600 g
酸性クリーナー容量	600 g
外寸	
幅	120 mm
高さ	583 mm (SOUL)、524 (SKYE)
奥行	459 mm
重量	
空重量	8 kg
音圧	
連続音圧レベル	<70 dB(A)**

仕様は変更される場合があります。

* 特別仕様については定格銘板を参照してください。指定された値は、標準仕様に対応しています。

** * A 特性音圧レベル (遅い動特性) および Lpa (パルス) はいかなる操作モードにおいてもオペレーターの作業場所にて 70 dB (A) を超えないものとします。

2.2 ビル側電源接続

電源	電源仕様			建物側の保護	接続ケーブル 導体断面積
1/N/PE	100 ~ 240 V	50/60 Hz	28 ~ 30 W	最大16 A	最小1.0 mm ²

2.3 水接続値

水圧	最小:	0.1 MPa (14.50 psi)
	最大:	1.0 MPa (145.04 psi)
入口の水溫	最小:	10 °C (50 °F)
	最大:	30 °C (86 °F)

水質

塩素含有量	最大:	使用地で認められている最大塩素濃度関連の規則にご注意ください。
pH値	最小:	6.5
	最大:	7
炭酸塩硬度 (ドイツ)	最小:	4 °dKH
	最大:	6 °dKH
炭酸塩硬度 (フランス)	最小:	8 °fKH
	最大:	12 °fKH
総硬度		> 炭酸塩硬度

2.4 周囲条件

周辺温度	最小:	10 °C (50 °F)
	最大:	+40 °C (104 °F)
相対湿度	最大:	80 %rF
海拔標高	最大:	2500 m (8202 フィート)
保護形式		IP X0

2.5 定格銘板

型式	モデル
Schaerer ProCare	モデルバリエーションなし



図: 定格銘板

定格銘板はマシンの裏側に取り付けられています。

障害発生時または保証請求時には銘板に記載の以下のデータをお伝えください：

- 機種
- 定格出力 > 例 28 ~ 30 W
- 定格電圧 > 例 100 ~ 240 V
- ビル側のフューズ容量 > 例 16 A
- シリアル番号 > [JJKW XXXXXX] > 例 2305 XXXXXX

3 適合宣言書

3.1 適用規格

メーカーはこの機械が前記の指令に関連する全ての規定に適合していることを宣言します。申し合わせなく装置を改造した場合、この宣言は無効となります。次の整合規格が適用されています。要求事項を適切に処理するためにISO 9001:2015, ISO 14001:2015およびISO 45001:2018規格の認証を取得している**DNV GL ~ Business Assurance**が適用されています。本適合宣言の発行に対する責任は、メーカーのみが負います。

上記の宣言の対象物は、2011年6月8日の欧州議会および欧州理事会による、電気・電子機器における危険物質の使用規制に関する指令 2011/65/EC の規定に準拠しています。

CE適合用

MD 2006/42/EC

- EN 60335-1:2020-08 +A11 +AC
- EN 60335-2-75:2010-11 +A1 +A11 +A12 +A2
- EN 62233:2008

EMC指令 2014/30/EU

- EN 55014-1:2018-08 +A1 +A2
- EN 55014-2:2016-01 +A1 +A2 +AC
- EN 55014-2:2016-01 +A1 +A2 +AC
- EN 61000-3-11:2021-03

RoHS 指令 2011/65/EU

- EN IEC 63000:2019-05

RED 2014/53/EU

- EN 301 489-1 V2.1.1:2017
- EN 301 489-7 V1.3.1:2005
- EN 301 489-24 V1.5.1:2010

欧州指令および規則を遵守するために

WEEE-指令 2012/19/EU

POP規制 2019/1021

EU化学物質規制に対して

REACH規則 1907/2006/EC

国際認証 (CB)

安全性

- IEC 60335-1:2020-08
- IEC 60335-2-75
- BS EN 62233:2008
- UL197
- CSA C22.2 No.109

EMC

- CISPR 14-1
- CISPR 14-2
- IEC 61000-3-2
- IEC 61000-3-11
- NSF / ANSI 372
- NSF / ANSI 4

CB スキーム > 試験報告書と証明書の相互承認の国際システム

CE 欧州共同体の調和法の要件

CISPR 電波干渉に関する国際特別委員会

EG/EU 欧州共同体は、EC/CFSP/PJCCからなる欧州連合の一部である。

EMC 電磁両立性

IEC	電気機器およびコンポーネントの国際適合性評価システム
MD	機械指令 (欧州議会および理事会)
POP	残留性有機汚染物質に関する規則 (EU)
REACH	化学物質の登録、評価、認可、制限に関する欧州化学物質規制
RED	無線機器および受信機 (無線通信) の欧州承認指令
RoHS	有害物質の制限
WEEE	電気および電子機器の廃棄物 > 電気および電子機器からの廃棄物の回避と削減
NSF	国立公衆衛生財団製品検査、点検、認証団体
UL	米国保険業者安全試験所米国市場に対する製品安全の基準
CSA	カナダ規格協会
ANSI	米国国家規格協会

3.2 製造者住所

製造者	ドキュメントの責任者
Schaerer AG P.O. Box 336 Niedermattstrasse 3b CH-4528 Zuchwil T +41 32 681 62 00 F +41 32 681 64 04 info@schaerer.com www.schaerer.com	Schaerer AG R&D GBU PCM担当取締役 P.O. Box 336 Niedermattstrasse 3b CH-4528 Zuchwil

4 製品の説明

4.1 ProCareの概要



図: 外観概要

- | | | | |
|---|----------------|---|-------------|
| ① | クォーターターンロック | ④ | CANバス接続ケーブル |
| ② | ホースアダプタ | ⑤ | 電源コード |
| ③ | Plug&Clean用接続部 | | |

Plug&Clean接続部(2)は完璧なホースクリーニングのために機能します。ここに2本のミルクホース(3)をつないで、Plug&Cleanクリーニングを選択してあるときには一括してクリーニングされます。

ホースアダプタ(3)はミルクホースとサクシオンチューブ間の接続部材です。サクシオンチューブをミルク冷却ボックス内に通します。

ProCareユニットは電源コード(5)で電力網に接続されています。

CANバス接続ケーブル(4)を介してマシンと調製用装置間のデータとコマンドのやり取りが行われます。

クォーターターンロック(1)がドロワーを閉めた状態に維持するので無断でアクセスできなくなっています。



図: 内部概要

- | | |
|---------------------------------|---|
| <p>① ユニオンナット</p> <p>② 受けトレイ</p> | <p>③ ProCareクリーニングバッグ (青) 用カップリング</p> <p>④ ProCareクリーニングバッグ (赤) 用カップリング</p> |
|---------------------------------|---|

ユニオンナット**(1)**がProCareクリーニングバッグをカップリングとドロワーケースに固定します。

受け皿**(2)**の中に両方のProCareクリーニングバッグがあります。受けトレイは下部の受け容器としての機能も兼ねています。クリーニングバッグから液体が漏れ出てもここに溜まるようになっています。同時にセンサーが検知してエラーメッセージが出ます。

ProCareクリーニングバッグ (青) はカップリングサポート**(3)**を介して取り付け、ユニオンナットで締結します。センサーがカップリングを監視しています。

ProCareクリーニングバッグはカップリングサポート**(4)**を介して取り付け、ユニオンナットで締結します。センサーがカップリングを監視しています。

5 取付けと試運転

5.1 ProCareユニットの接続

前提条件：ProCareユニットを接続するにはマシンがオフになっていなければなりません。

設置手順の概要

1. マシンにProCareユニットを接続します。
2. 冷却ユニットにProCareユニットを接続します。
3. ミルクホースをつなぎます。
4. マシンにCANバス接続ケーブルを接続します。
5. 別のCANバス接続ケーブルを調製用装置（ミルクシステム）と接続します。
6. 電源プラグを電源に接続します。
 - ✓ モジュールは電源が入っています。
7. マシンをオンにします。
 - ✓ モジュールとマシンがつながります。
8. マシンの始動ルーチンを始めてください。



始動ルーチンの詳しい説明はコーヒーマシンの取扱説明書をご覧ください。



コーヒーマシンへのProCareユニットのレトロフィットまたは調製冷却ユニットのProCareユニットへのレトロフィットに関する詳しい情報はProCare専用設置説明書をご覧ください。

5.2 マシンにProCareユニットをつなぎます

マシンにProCare準備を装備するには以下の前提条件が適用されます：

- ProCareユニットの支持用金属製ホルダーがマシンに内蔵されていること。
- マシンの側面にはすでにProCareユニットの取付けボルト用の穴があること。
- ProCareユニットとの接続用ホースが機械側面から外へ出て、ケーブルバインダーで固定されていること。

ProCareユニットの接続



図: ProCareユニットをマシンに固定する

- ① 接続プレート
- ② ProCareユニットへのホース
- ③ 取付けボルト

1. ProCareユニットをマシンの接続プレート(1)に嵌め込みます。
2. テフロンホース(2)をProCareユニットに差し込みます。
3. ProCareユニットをマシン(3)にねじ式に取り付けます。

ホースの接続

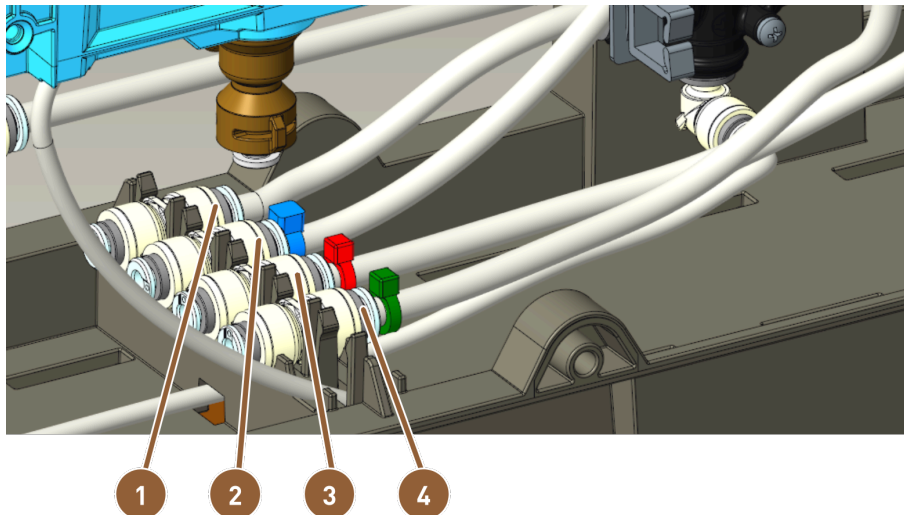


図: ホース接続のレイアウト

- | | |
|---------|-----------|
| 1 白：ミルク | 3 赤：カルキ抜き |
| 2 青：水 | 4 緑：コーヒー |

1. ホースはループ状に寝かせるように切ってください。
2. ホースをループ状にするのはモジュールを一回取り外す必要がある場合が発生したときのためです。
3. ホースはマークに従って接続します。
4. ホースがフロントパネルの閉鎖機構を阻止しないようにご注意ください。

5.3 ProCareユニットを冷却ユニットと接続します

冷却ユニットの取り付け

1. 冷却ユニットの取付け用金属ホルダーをProCareユニット側面に取り付けます。
2. 同梱の側面パネルでProCareユニットを閉じます。この際位置決めに応じて右か左かどちらかにケーシングが来ます。
3. ProCareユニットに冷却ユニットを取り付けます。

ミルクホースの調整

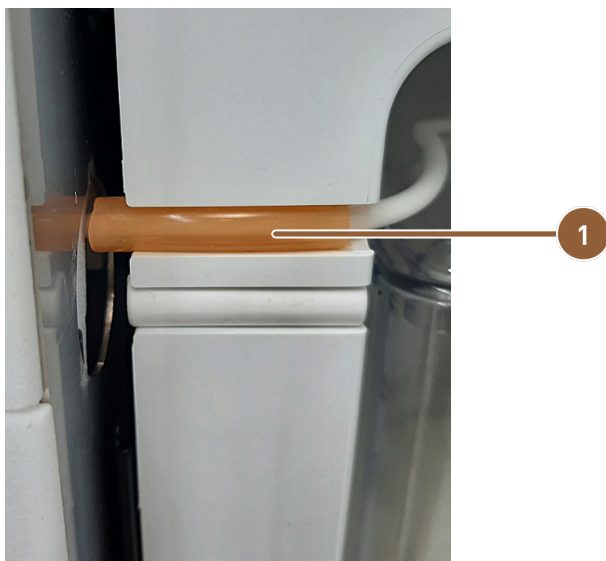


図: 冷却ユニット内のミルクホース

① 橙色マーク付きホース

1. ミルクホースを取り付け、ProCareユニットのPlug&Clean接続部まで届く程度に切ります。
2. ミルクホースに橙色ホース4/8シリコーン(1)を覆うように通して、これによって冷蔵庫の窪みの中にクランプします。

5.4 ProCareユニットのケーブル接続

装置をオンにする前に電源コードとCANバスを接続します。

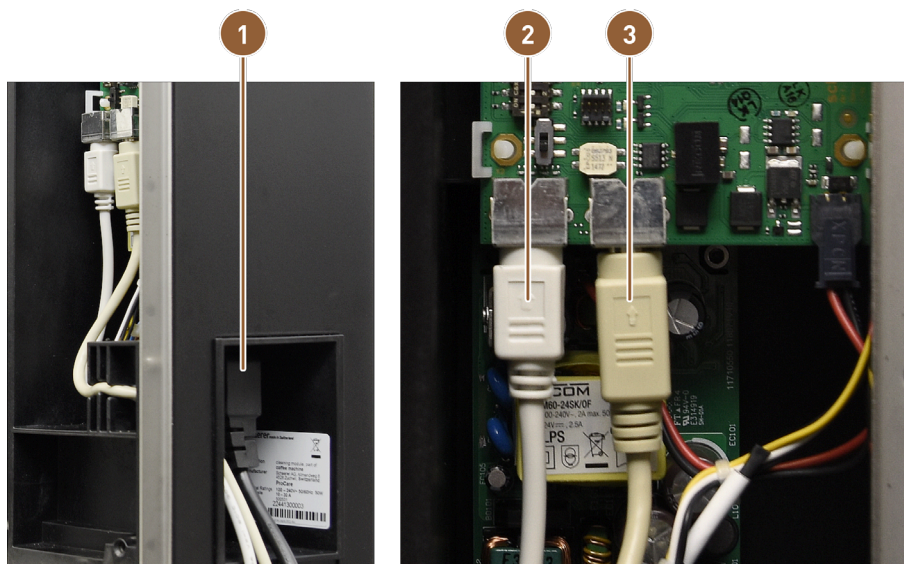


図: ProCareのケーブル接続

- ① 電源プラグ用電源接続部
- ② マシンのCANバスケーブル
- ③ 冷却ユニットのCANバスケーブル

1. 冷却装置のプラグをProCareユニット (1)の背面にある接続部に差し込みます。
2. 6極CAN Mini-DIN制御ケーブル2 m (2)をProCareユニットに接続します。
3. 冷蔵庫のCANバスケーブルを接続します(3)。

5.5 ProCareクリーニングバッグの取り付け

ProCareクリーニングバッグ1個でクリーニング100回まで使えます。
その後はクリーニングバッグを交換してください。

クリーニングバッグにはクリーニングパウダーが充填されていて封止されています。青のクリーニングバッグには塩基性、赤の方には酸性の洗剤が入っています。



図: ProCareを開く

- ① 受けトレイ付きドロワー

1. クォーターターンロックを緩めてドロワーを受けトレイ (1)ごと引き出し、クリーニングバッグを取出します。
クォーターターンロックはミルク接続部のフラップ (Plug&Clean) の下にあります。



図: クリーニングバッグを取り外す

② ユニオンナット

2. クリーニングバッグからユニオンナット(2)を外します。
3. 空のクリーニングバッグを取り外して廃棄します。
4. キャップを取外し、新品ProCareクリーニングバッグの保護フィルムを剥がします。
5. 新品ProCareクリーニングバッグを空いているカップリングサポートに取り付け、クリーニングバッグのキャップをユニオンナットで締結します。



カップリングのサイズはそれぞれ異なります。このため、クリーニングバッグの色違いを取り違えることはありません。



図: ドロワーを閉める

① ドロワー

6. 筐体にドロワー(1)を元に押し入れてProCareを閉めます。
 - ✓ ProCare : クリーニングバッグ装着完了のメッセージダイアログが出ます。
7. OKで確認します。
 - ✓ 取り付けしたクリーニングバッグのコンディショニング画面が開きます。

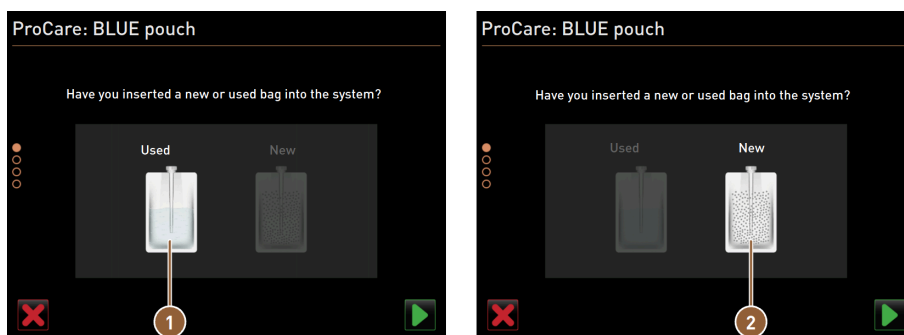




図: ProCare (青) の例: クリーニングバッグの交換

- ① 使用済みクリーニングバッグ: 排気が始まります。
 - ② 新品クリーニングバッグ: 水が充填されてから排気されます。
8. 使用したことがあるクリーニングバッグを取り付けた場合は**中古**をタップしますが、新品のクリーニングバッグを取り付けたときは**新品**をタップします。
 9. 選択をで確定します。
 - ✓ 次に、使用したことがあるクリーニングバッグ(1)から排気されます。新品クリーニングバッグ(2)には水が充填されてから排気されます。


✓ ProCare : バッグ交換完了のメッセージを表示した確認ダイアログが出ます。

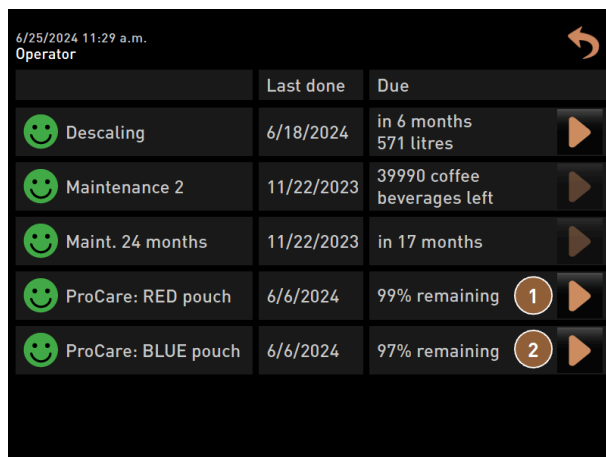
10. で確認します。

✓ これでクリーニングバッグの取付けとコンディショニングは完了しました。これでProCareのクリーニング準備ができました。

これと同じ手順は手動ではサービスメニューを介して開始することができます。

サービスメニューからのバッグ交換方法：

1. でサービスメニューを開きます。
2. メンテナンス間隔。









	Last done	Due
 Descaling	6/18/2024	in 6 months 571 litres
 Maintenance 2	11/22/2023	39990 coffee beverages left
 Maint. 24 months	11/22/2023	in 17 months
 ProCare: RED pouch	6/6/2024	99% remaining 1
 ProCare: BLUE pouch	6/6/2024	97% remaining 2

図: 残った内容物の表示



1 クリーニングバッグ (赤)

2 クリーニングバッグ (青)

3. メンテナンス間隔画面で  ボタンを押して ProCare : バッグ (赤) または ProCare : バッグ (青) のメニュー項目をタップします。
4. バッグを交換するか、手順をここで止めます。
 - ✓ メインメニューが出ます。

6 操作

6.1 サービスメニューへのログイン

- ▶ サービスメニュー  ボタンをタップします。
 - ✓ サービスメニューが開きます。
- 1. ボタン  をタップしてログアウトして再度ログインします。
 - ✓ プロファイルダイアログが開きます。

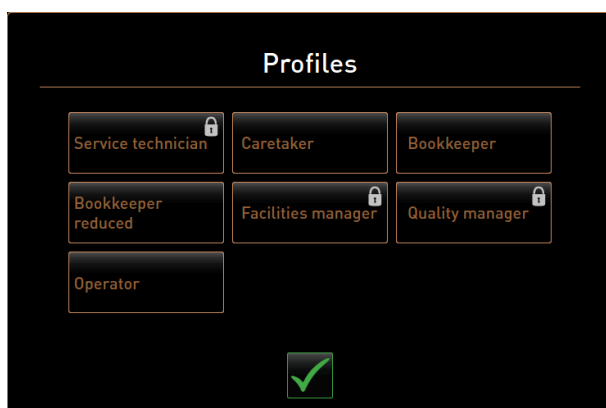


図: プロファイルダイアログ

- 2. サービス技術者でログインします。

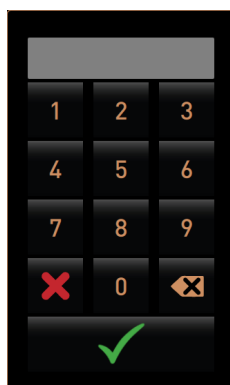



図: PIN入力用のテンキー

- ✓ テンキーが出ているダイアログが開きます。
- 3. サービス技術者のPINを入力します。
- 4.  ボタンで設定を開きます。

6.2 システムクリーニングサイクル

問題のない運転と最適な飲料品質のためには定期的なクリーニングが必須の要件です。

システムクリーニングは自動的に一定間隔で実行され、コーヒーマシンの利用可能な液体用経路をクリーニングします。

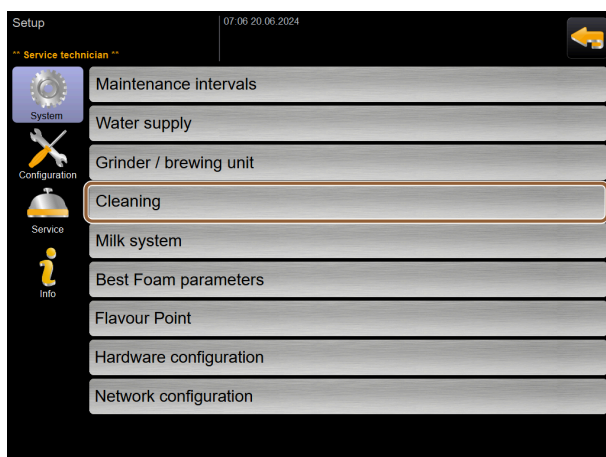


図: クリーニング設定の呼び出し

4. クリーニングボタンをタップします。
 - ✓ クリーニングの設定画面が出ます。

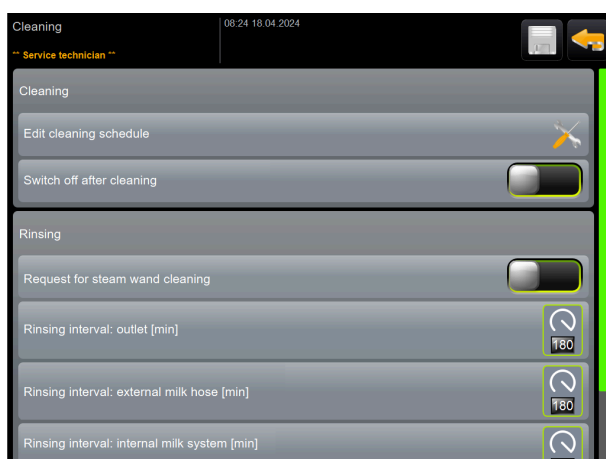


図: クリーニングの設定画面

5. クリーニングプラン編集ボタンをタップします。
 - ✓ クリーニングタスク用スケジュールが出ます。

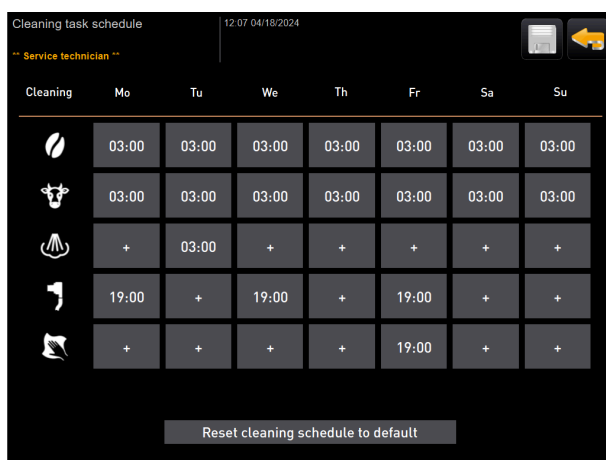


図: クリーニングタスク用スケジュール

6.4 クリーニング時間の設定

クリーニングタスク用スケジュールには標準時間が予め定義されています。独自のクリーニングプランを作成した場合、これは随時標準にリセットすることができます。個別設定したクリーニングプランを標準にリセットした場合は元に戻せません。



クリーニングタスク用スケジュール (グローバル設定) は異なるシステムについて時間割りでクリーニングプランを設定します。
クリーニングプランは毎日または異なる曜日に異なる間隔で設定することができます。

次のシステムをクリーニングすることができます：

- コーヒーシステム
- ミルクシステム
- パウダーシステム
- ボイラーシステム
- Plug&Cleanシステム (ProCareで)

クリーニングタスクの追加方法：

1. クリーニングタスク表の希望する空欄にある + アイコンをタップします。
✓ クリーニングタスク追加ダイアログが出ます。

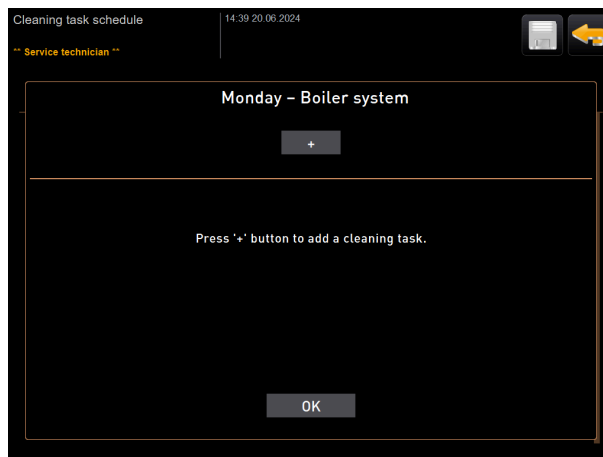


図: クリーニングタスク追加ダイアログ

2. + アイコンをタップして下記の説明に従って次に進みます。

既存のクリーニングタスク編集方法：

- ▶ クリーニングタスク用スケジュール画面でクリーニングを実行するシステムと曜日を選択します。
✓ 設定ダイアログが出ます。

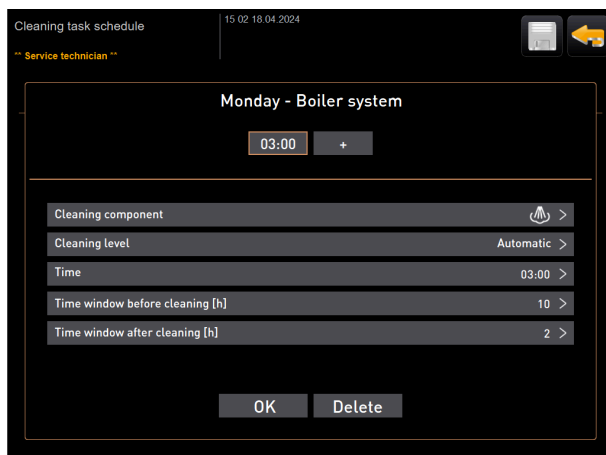


図: ボイラーシステムのクリーニングタスク用スケジュール

クリーニングレベルの指定

1. **クリーニングレベル**行をタップします。
クリーニングレベルは三種類から選べます：
 - **要求** = コーヒーマシンは継続して運転可能です。
 - **強制** = コーヒーマシンはブロックされています。
 - **自動** = クリーニングは自動的に開始されます。(ProCareのみで)
2. **OK**ボタンで選択を確定します。
✓ これでクリーニングレベルは保存されました。

時刻設定

4つの時刻まで指定できます。

1. このためには時刻の横の+アイコンをタップします。
2. **時刻**行をタップします。
✓ 時刻ダイアログが出ます。

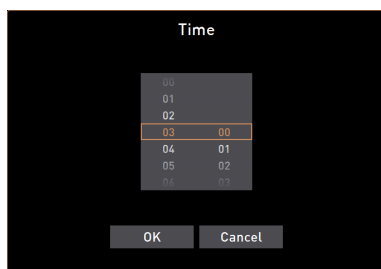


図: クリーニング時刻の選択

3. 時刻を選ぶ際にページをめくり (スクロール) ます。
4. **OK**ボタンで選択を確定します。
✓ 選択した時刻がダイアログに出ます。
5. **OK**ボタンで選択を確定します。
✓ これで時刻は保存されました。
6. **キャンセル**ボタンで入力を取り消します。

クリーニング前後の時間枠指定

クリーニング前のタイムウィンドウ [h]でクリーニング予定を繰り上げて実行させたい時刻を指定します。

クリーニング後のタイムウィンドウ [h]でクリーニング予定より遅らせてマシンがブロックされる前 (猶予期間) にクリーニングを実行したい時刻を指定します。


1. クリーニング前のタイムウィンドウ[h]またはクリーニング後のタイムウィンドウ [h]行をタップします。
 - ✓ 時刻の時間選択に類似した時間選択ダイアログが出ます。
2. 時間枠を指定するためにはページをめくります (スクロール)。
3. 時刻設定と同様に行うことができます。
 - ✓ 各時間枠の時間数はダイアログに表示されます。



クリーニング前のタイムウィンドウ(h)とクリーニング後のタイムウィンドウ(h)での時間設定によって予定より早くまたは遅くクリーニングサイクルを変更できます。

例：予定クリーニング時刻になって客が多く来ることが期待される場合。クリーニング前後のタイムウィンドウを使用してこの時刻前後のクリーニングを早くしたり遅くしたりすることができます。

6.5 ProCareクリーニングのバリエーション

- ▶ サービスメニュー  ボタンをタップします。
 - ✓ サービスメニューが開きます。



1. クリーニングボタンをタップします。
 - ✓ クリーニング画面が開きます。

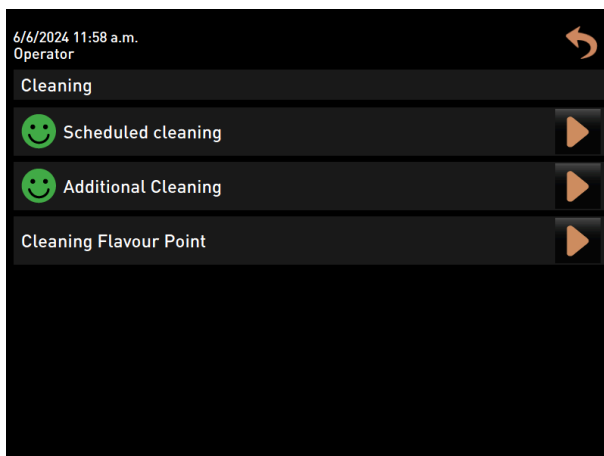


図: クリーニングモードの選択画面

次のクリーニングモードから選べます：

- 計画されたクリーニング
- 追加のクリーニング
- Flavour Point クリーニング (オプション)

6.5.1 ProCareでの予定クリーニング開始




ProCareクリーニングプロセスが様々な原因によって完全に正常に完了していない場合、必ずやり直す必要があります。クリーニングプロセスが正しく完了した場合しかマシンの運転準備はできていません。

クリーニングプログラムはサービスメニューから開始されます。ユーザーが行うすべての操作がタッチスクリーンで案内されます。


前提条件： サービスメニューボタンにクリーニング予定が出ます。



図: クリーニング予定を表示しているサービスメニューボタン

1. 別個のクリーニングを行うにはドリップグリッドを除去します。
2. サービスメニュー  ボタンをタップします。
 - ✓ サービスメニューが開きます。
3. クリーニングプロセスがPINで保護されていれば、そのために設定されたPINを入力してください。
 - ✓ 許可が与えられます。
 - ✓ これでクリーニングボタンは有効になっています。



4. クリーニングボタンをタップします。
 - ✓ 異なるクリーニングモード用のメニュー項目が並ぶクリーニング画面が出ます。
5. 予定クリーニング  ボタンをタップします。

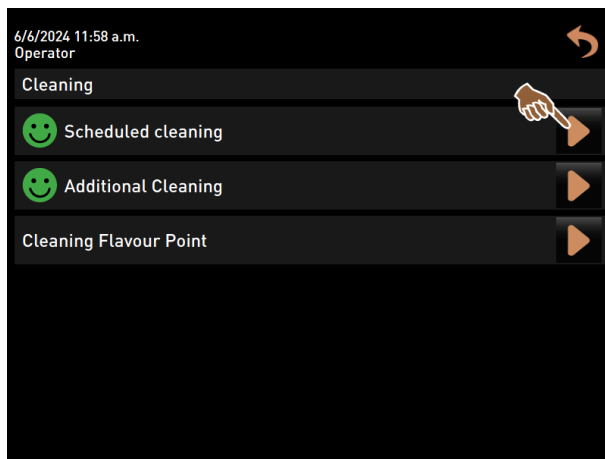


図: 予定クリーニングを開く

- ✓ 予定後クリーニングダイアログが出ます。

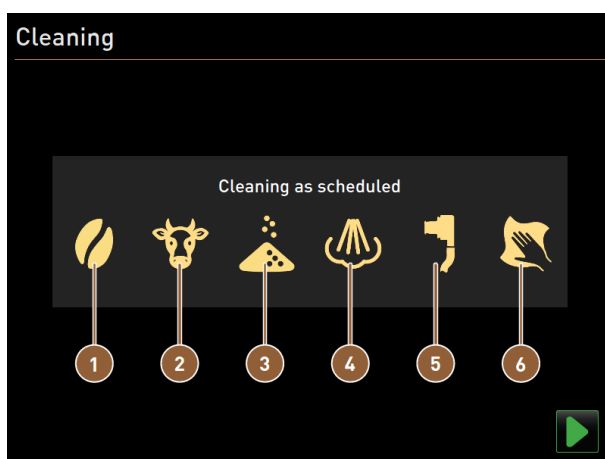


図: クリーニングプラン後のクリーニング用ダイアログ

- | | |
|---|--|
|  コーヒーシステムのクリーニング |  ボイラーシステムのクリーニング |
|  ミルクシステムのクリーニング |  Plug&Cleanクリーニング |
|  パウダーシステムのクリーニング |  画面に案内が出る手動クリーニング手順 |

6. 予定クリーニングを▶で開始します。
 - ✓ クリーニングは設定されたクリーニングプランの後に開始されます。
 - ✓ クリーニング対象のシステムがそのアイコンでダイアログに明るく強調表示されます。

1 Plug&Clean接続部を接続する



図: ミルクホースをPlug&Clean接続部につなぎます

1. 冷却ユニット用扉を開けます。
2. ミルクコンテナからミルクホースを取出します。
3. ミルクホースをProCareユニットの対応するPlug&Clean接続部につなぎます。

画面に案内が出る手動クリーニング手順

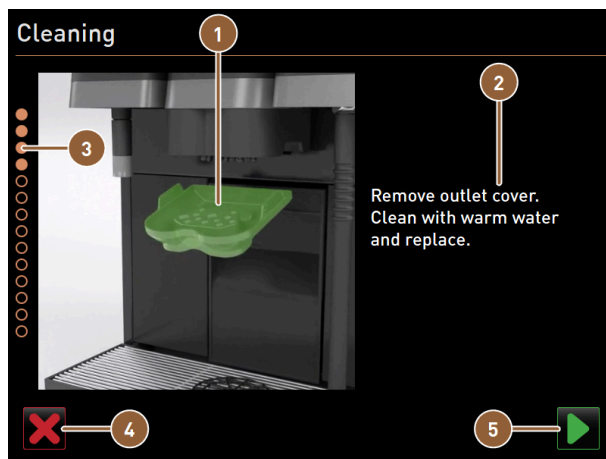


図: クリーニングプログラムの開始ダイアログ

- | | |
|--------------------------|--------------------|
| ① 現在の作業に関する画像またはアニメーション。 | ④ クリーニングのキャンセル用ボタン |
| ② 操作の要求または情報の文言 | ⑤ 次へボタンで次のステップに進む |
| ③ 進捗状況の表示 | |

1. 画面に出る指示に従います。
2. 画面に出た操作を実行したら▶をタップして次のクリーニングステップに進みます。

手動クリーニング: カス受け

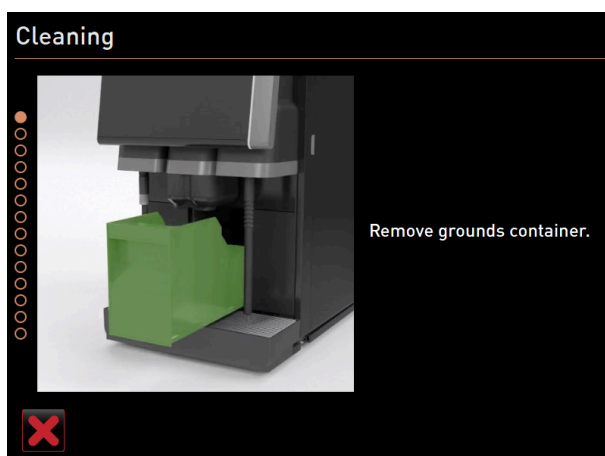


図: カス受けを取り外します

1. 飲料注出口を押し上げます。
2. マシンからカス受けを引き出します。

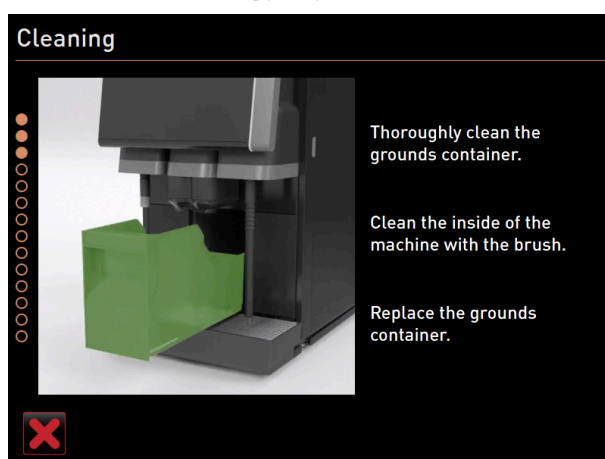


図: カス受けを元に戻します

- ✓ カス受けを徹底洗浄する、マシン内部をブラシでクリーニングする、およびカス受けを基に取り付けるの要求が出ます。
3. 抽出チャンバーからコブラシでコーヒー残留物を拭き取ります。
 4. カス受けを空にして清水と洗浄液ですすぎ、洗浄して乾かします。
 5. カス受けをマシンの元の位置にストップまで取り付けます。
 - ✓ 飲料注出口カバーを取り外すの要求が出ます。

手動クリーニング: 飲料注出口カバー

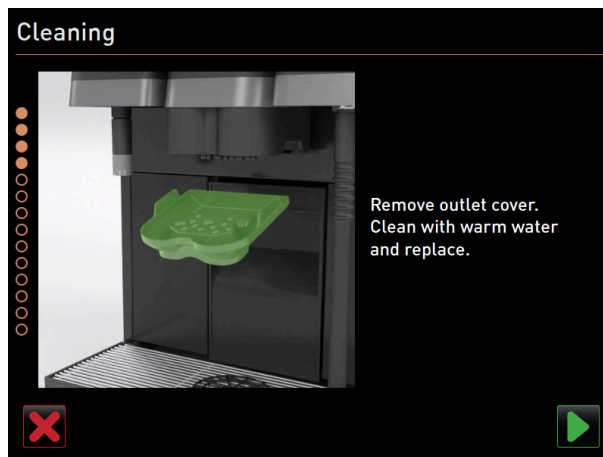


図: 飲料注出口カバーを取り外す

1. 飲料注出口カバーをその中央を押すと同時に引き下げて嵌め合い箇所から外します。
2. 流れる温水の下で飲料注出口カバーをブラシで洗います。
3. 洗浄したカバーはカバーの後部を嵌め合いに取り付けて前部を嵌めることで元の位置に取り付けます。
注意 カバーが正しく挿入されていないと、飲料の注出時に飛散するおそれがあります。
4. 飲料注出口カバーが正しく取り付けられていることを確認してください。
5. ボタンで確認して次の手順に進みます。

手動クリーニング: ミルクカップ



図: コントロールパネルを少し浮かせる

1. コントロールパネルの上部を強めに自分の方に引いてロックから外します。
✓ コントロールパネルは解除されています。
2. 両手で下からコントロールパネルを上ストップまで押し上げます。
✓ コントロールパネルは自動的に最上位置に留まります。
✓ ミキサーカップにアクセスできます。

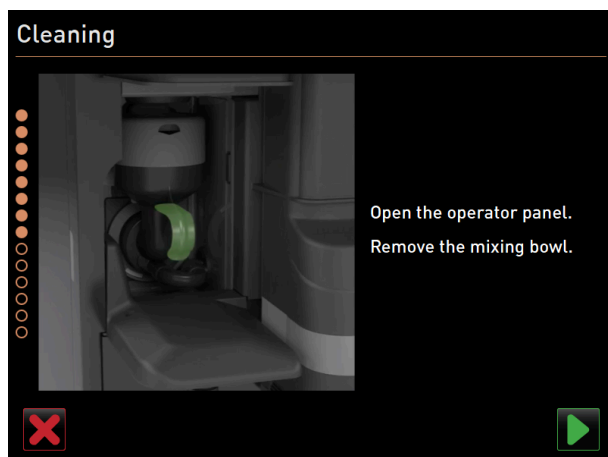


図: ミキサーカップを手間に取り出す

3. グリップの凹部にあるミキサーカップをマシンから引き出します。
4. ミキサーカップの取出しを▶で確認します。



図: ミキサーカップのクリーニング

5. ミキサーカップの個別部品を温かい清水の下で洗ってすすぎます。
6. ミキサーカップを清潔な布でよく乾くまで拭き取ります。
7. ミキサーカップのクリーニング完了を▶で確認します。

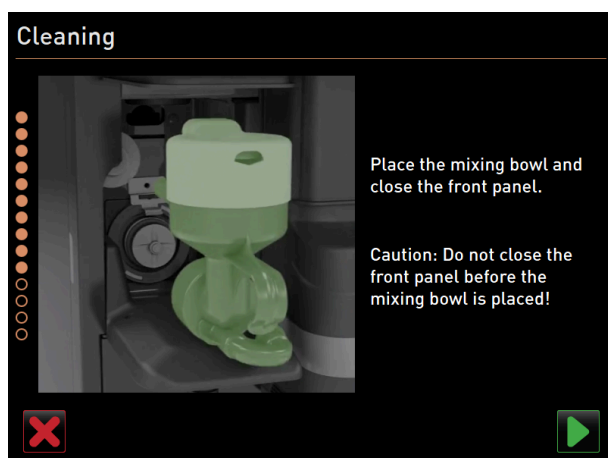


図: ミキサーカップを取り付ける

8. ミキサーカップを元に取り付けます。
9. ミキサーカップの正しい取付状態確認してください。

注意 ミキサーカップが正しく挿入されていないと、浸水が発生する可能性があります。

10. コントロールパネルを元のように閉じます。
11. ミキサーカップの洗浄と取り付け完了を▶で確認します。
✓ クリーニングプロセスが開始します。

自動クリーニングの進捗状況の表示

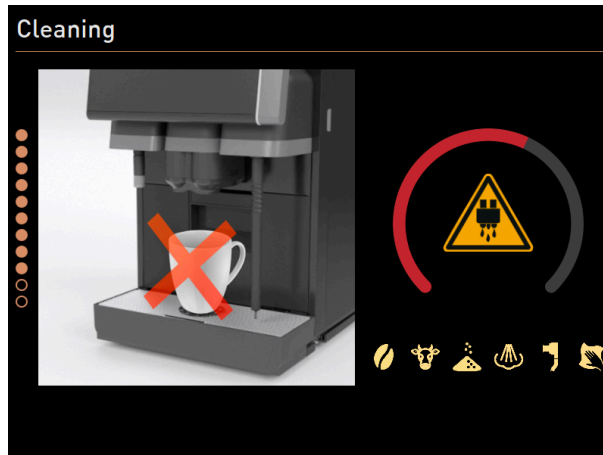


図: クリーニングの進捗状況の表示

クリーニングの実行中にディスプレイには次の内容が出ます：

- バツ印付きカップはその時点で飲料をサービスすることはできないことを意味します。
- 進捗状況の円弧表示はクリーニングプロセスの完了部分と残り部分を表します。
- 高温液の流出に関する警告は警告アイコンで表されます。
- クリーニング対象のシステムはそのアイコンが明るく強調表示されます。

Plug&Clean接続部の取り外し




図: Plug&Clean接続部からミルクホースを取り外す

1. ミルクホースのアダプターをProCareユニットの各Plug&Clean接続部から取り外して、アダプターを湿らせた布で拭き取ります。

ミルクコンテナを再挿入します



図: ミルクコンテナを取り付ける

1. クリーニングしたミルクコンテナを冷却ユニットの元の位置に取り付けます。
2. ミルクホースアダプターを各ミルクコンテナのカバーに再度差し込みます。
3. 必要であれば新鮮な予め冷やしたミルク (3 °C ~ 5 °C または 37.4 °F ~ 41 °F) を再度充填します。
注記 Twin Milk 装備マシンにはミルクコンテナが 2 つ付いています。
4. ミルクコンテナの接続が済んだら  で確認します。

クリーニング予定の完了








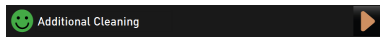
図: これでミルクシステムはオンになります。

- ✓ ミルクシステムはスイッチがオンになります。
 - ✓ システムのすすぎが実行されます。
 - ✓ 再起動が実行されます。
 - ✓ サービスメニューには次回のクリーニング予定までの時間[h]が出ます。
1. ドリップグリッドを流水の下でブラシで洗います。
 2. クリーニングしたドリップグリッドを元通り取り付けます。
 - ✓ 以上でマシンはクリーニングされ運転準備ができました。


6.5.2 追加のクリーニング

追加クリーニングはいつでも実行できます。

-  コーヒーシステム
-  パウダーシステム
-  ボイラーシステム
-  ミルク接続部のホースピース (ProCareでのクリーニングの場合はPlug&Clean)
-  手動クリーニング (ProCareでのクリーニングの場合)



追加クリーニングの開始

1. 追加クリーニングボタンをタップします。
 - ✓ クリーニングの対象となるシステムを表示した画面が出ます。
2. クリーニング対象である所望のシステムを選びます。
3. 選択項目を  で確認します。
4. マシンの画面に出る指示に従います。
 - ✓ 選択されたシステムがクリーニングされます。

6.6 ProCare : ミルクホースピース (Plug&Clean) の洗浄

ミルクホースピース (Plug&Clean) はクリーニングプロセスの完了時に洗浄されます。

Plug&Cleanクリーニングステップはいつでも手動で開始できます。

1. その際はミルクホースをProCareミルク接続部 (Plug&Clean) につなぎます。
 - ✓ 次のダイアログが出ます：

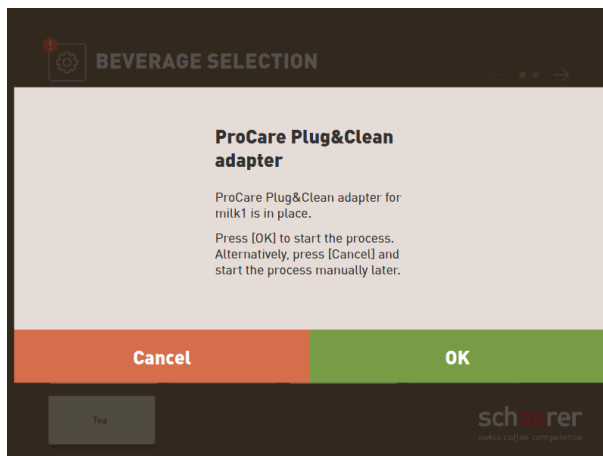


図: Plug&Cleanダイアログ

2. 画面に出るOKでクリーニングを確認します。



図: Plug&Clean接続部からミルクホースを取り外す

3. クリーニングが完了したら、ProCareユニットの各Plug&Clean接続部からミルクホースのアダプターを取り外して湿らせた布で拭き取ります。



図: ミルクコンテナを取り付ける

4. ミルクコンテナの取り付け要求ダイアログが出ます。
5. クリーニングしたミルクコンテナを冷却ユニットの元の位置に取り付けます。
6. ミルクホースアダプターを各ミルクコンテナのカバーに再度差し込みます。
7. 必要であれば新鮮な予め冷やしたミルク (3 °C ~ 5 °Cまたは37.4 °F ~ 41 °F) を再度充填します。
8. ミルクコンテナの接続が済んだら▶で確認します。

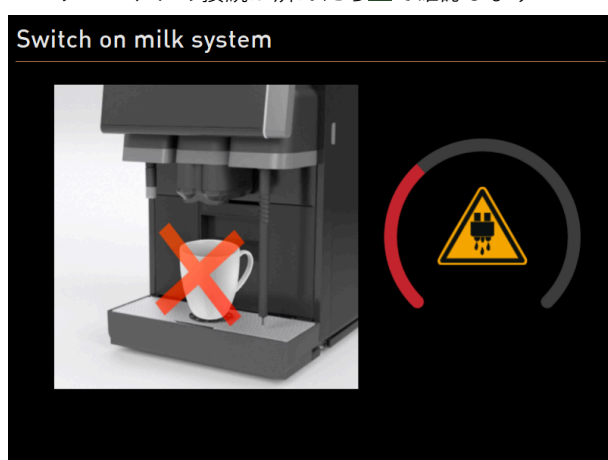


図: これでミルクシステムはオンになります。

- ✓ ミルクシステムをオンにするステータス画面が出ます。

- ✓ 再起動が実行されます。
- ✓ 以上でマシンはクリーニングされ運転準備ができました。

7 クリーニング

確実かつ障害の無い運用のためにはクリーニングが必須の条件です。従ってクリーニングは最も肝要であり、説明された規定に従って行ってください。



注記

クリーニングが正しく行われないと装置に引っ掻き傷が発生する場合があります。

- ▶ ほこりの付いていない清潔な布をご使用ください。
- ▶ 表面を磨き粉または同様のものを使って洗浄しないでください。
- ▶ 鋭い清掃器具を使用しないでください。
- ▶ 装置をウォータージェットで洗浄しないでください。

ProCareユニットのクリーニング用補助用具

- マイクロファイバークロス
- コットンクロス

クリーニングプロセス

1. 装置の外表面を湿らせたマイクロファイバークロスで清掃します。
2. 乾かすときは木目の細かいコットンクロスをご使用ください。
3. 受けトレイの内部と外部を洗浄します。
4. ミルク接続部 (Plug&Clean) のソケットをクリーニングします。
5. 長時間運転休止の前後は内部をクリーニングします。

8 障害の除去

エラーパターン	対処
装置が機能しない	<ul style="list-style-type: none">▶ 検査：電源に接続されていますか？▶ 検査：現場のプレーカーは故障していませんか？
空のメッセージが伝えられません。	<ul style="list-style-type: none">▶ コーヒーマシンとのCANノード接続を点検します。

9 アンインストール

使用終了後

使用寿命が経過した装置の処分：

1. マシンから装置を切り離します。
2. 装置を分解します。
3. 環境に適合した方法で装置を廃棄します。

10 廃棄



マシンは必ず現地の法規制に従い、適切に廃棄してください。

▶ サービスパートナーまでお問い合わせください。

引き取りまたは廃棄に関する合意がない場合は、分解された部品は再利用(リサイクル)してください。

1. 金属はスクラップとして廃棄してください。
2. プラスチック製エレメントはリサイクルしてください。
3. 残りの構成要素は素材別に分類して廃棄してください。

